

2005年5月18日

自動車ドア用IRカット強化ガラス「サンベール」を開発・販売開始
- フロント用IRカットガラス「クールベール」との組み合わせでより快適な車内環境を実現 -

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社(本社:東京、社長:門松正宏)は、自動車ドア用のIR(赤外線)カット強化ガラス「サンベール」を開発しました。「サンベール」はフロントドアガラスに必要な可視光線透過率をクリアしつつ、従来のドア用強化ガラスが持つ紫外線カット性能を維持しながら、日射によるジリジリ感の原因となる赤外線を効果的にカットし、太陽熱の流入を抑制します。旭硝子が世界で初めて開発・商品化し、主にフロントガラスとして使用されている、電波透過型IRカット合わせガラス「クールベール」と組み合わせることで、より快適な車内環境を実現できます。

IRカットガラスは、日射によるジリジリ感を低減し車内の快適性を高めるガラスとして、現在、フロントを中心に国内市場で販売される新車の約10%に採用されており、旭硝子の「クールベール」が市場をほぼ独占していますが、車内の快適性に対するニーズの高まりとともに、今後は、サイド、リア等を含めたガラス全体で車内の快適性を高める提案が重要となります。

リアドアおよびリアのガラスは、着色されたプライバシーガラスにより太陽熱の流入を抑制することが可能ですが、国内のフロントドアガラスは法規制により、フロントガラスと同様、可視光線透過率が70%以上あることが求められます。「サンベール」は、可視光線透過率を確保しつつ、太陽熱の流入を抑制し、ドアガラスに使われる一般的な3.5mmの厚さの場合で、通常のガラスに比べ日射エネルギー透過率を約1割改善します。「クールベール」と組み合わせれば、正面、横いずれからの日射によるジリジリ感も抑制し、エアコンの温度を高め設定しても快適性が得られます。また、車内の温度上昇を抑制することからエアコン負荷を軽減し、燃費を改善する効果も期待できます。

また、「サンベール」はガラス組成の改良により赤外線カットの機能を持たせているため、合わせガラスやコーティングガラスに比べ安価で、ドアの設計を変更する必要もありません。

「サンベール」は、機能、コスト、設計への対応性が評価され、5月17日に発売を発表した三菱自動車工業株式会社のコルト、パジェロミニの特別仕様車に「クールベール」と併せて採用されました。今後旭硝子は、「サンベール」を自動車用フロントドアガラスの標準品と位置付け、販売活動を積極的に進めてまいります。

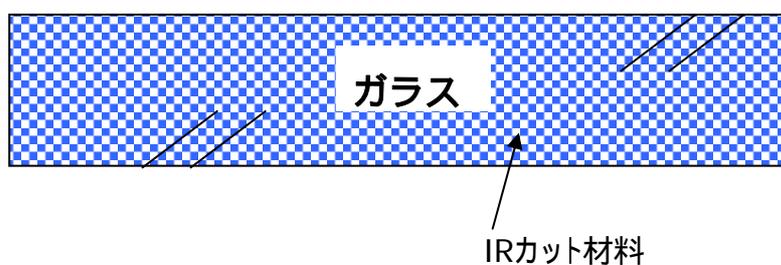
旭硝子は、今後も自動車用ガラスのリーディングカンパニーとして、環境、快適性の他、さまざまな自動車ガラスへのニーズに答える、より高機能・高品質の製品を、スピーディーに供給することにより、自動車ガラス分野全体での事業拡大を目指します。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一
(担当：波多野 TEL:03-3218-5915、Email:info-pr@agc.co.jp)

ご参考

(1) サンベールイメージ



(2) クールベールイメージ

